

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

【 】

学校名及び規模

学校名	石巻市立湊中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	23
生徒数	103	104	90	2	299	

研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力を身につけようとする湊中学生の育成
～個に応じた指導の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の趣旨

本校の生徒の課題としてあげられる、基礎・基本の力の不足や受身的な学習態度などの課題を解決するために、生徒一人一人の実態に応じた、指導方法、指導形態などを工夫することによって、主体的に学習に取り組む生徒を育成することができるのではないかと考え本研究主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

- ・ 研究組織に、少人数部会を設け、異なる教科間で少人数指導やチーム・ティーチングの効果的な実践について情報交換を行いながら、研究を進めている。
- ・ 時間割の中に、週1時間少人数指導、チーム・ティーチングを実施している数学・英語・理科の担当教師が打ち合わせを行なう教科部会の時間を設定している。授業の予定、指導方法などについての打ち合わせの時間を確保し、指導の充実を図っている。

(2) 研究の実際

ア 個に応じた指導のための指導方法・指導體制の工夫改善

・評価規準を生かした基礎・基本の確実な定着を目指した授業づくり

評価項目を絞り込み、授業の目標を明確に提示し、目標とした観点について時中の見取りを入れた、個に応じた指導によって基礎・基本の定着を図る。

特に、時中の見取りを大切にし、見取りによって生徒一人一人の学習状況をしっかりと把握した上で、個に応じた指導を行っていく。

授業イメージ

評価項目の絞り込み

本時のねらいの提示

生徒の学習状況の見取り

見取りをもとにした指導・支援
*個に応じた指導方法・形態の工夫

教師による評価・自己評価



時中の見取りと個に応じた指導

・ **基礎・基本の定着をねらいとした定期的な単元テストの実施**

5週間に一回全学年・全学級で国語・社会・数学・理科・英語の5教科の単元テストを実施する。期間内に学習した基礎的・基本的事項の定着の確認を目的とする。実施方法については、1日1教科、全学級同じ時間に実施し、試験監督は、基本的に実施教科の担当者が行なう。前半25分間をテスト、後半25分間を解答、解説にあてている。また、テストの結果は分析し、その後の補充学習や個に応じた指導の資料として活用する。

単元テストの様子及びテスト例

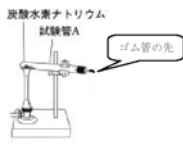


平成15年度第5回まとめの時間単元テスト 理科 問題 平成16年2月4日実施

1. 右の図のような装置をつかって炭酸水素ナトリウムを加熱する実験を行ったところ次のような反応が起きたことがわかった。
炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+水+二酸化炭素
 次の問いに答えなさい。

(1) 炭酸水素ナトリウムを加熱したところゴム管の先から二酸化炭素がでてきた。どのようにして集めたのか図で表しなさい。

(2) この図で、試験管Aを見ると試験管の口のほうが少し下がっている。このように試験管をスタンドにセットしたのはなぜか。理由を説明しなさい。



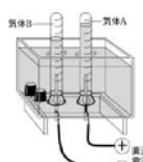
2. 右の図のような装置をつかって水に電流を流す実験を行った。次の問いに答えなさい。

(1) この実験を行うために水に少量の水酸化ナトリウムを加えた。その理由はなぜか答えなさい。

(2) それぞれの試験管に集まった気体A、気体Bは何とよばれる気体か。名称を答えなさい。また、そう考えた理由を説明しなさい。

(3) (2)で答えた気体を調べる方法と結果を答えなさい。

(4) この実験のような化学変化を何とよぶか答えなさい。



3. (1) 原子を表す記号と名前について下の表の①～⑬に適切な記号、名前を答えなさい。

記号	名前	記号	名前	記号	名前
①	カルシウム	④	ナトリウム	⑦	酸素
②	銅	⑤	マグネシウム	⑧	水素
Fe	③	S	⑥	C	⑩
Cu	①	Cl	⑨	N	⑬

(2) 原子とはどんなものか、分子とはどんなものか、本書を例に挙げて説明しなさい。

4. 鉄と硫黄を混ぜ合わせ加熱する実験を行った。図及び実験結果を見て、次の問いに答えなさい。

実験結果

実験	加熱前	加熱後
細片の反応	くっつく	くっつかない
物質の性状	粉末	固塊
燃焼との反応	気体発生 無色無臭	気体発生 臭い 緑の煙ったようになり

A 鉄の一端を熱する
B (そのまま)

(1) この実験結果から、加熱することによって、鉄と硫黄の粉末はどのようなものと考えられるか。説明しなさい。

(2) (1)のような化学変化を何とよぶか答えなさい。

・ **弾力的な少人数指導、チーム・ティーチングの工夫**

個に応じた指導形態の工夫の一つとして、数学、英語、理科の3教科で複数教員による指導を実施している。(1学級に2名の教員)単元、題材、生徒の実態にあわせ、計画的に少人数指導(習熟度別、課題別、興味・関心別など)とチーム・ティーチングを弾力的に取り入れて実施している。

各教科での実践について

<p>数 学</p> <p>基礎コース、発展コースに分かれた習熟度別指導を中心に行っている。コース選択については、本人、家庭の希望を受けて教師と面談の上で決定している。単元ごとに、コース決定を行い、生徒の希望によりコース変更も可能としている。</p>	
<p>英 語</p> <p>チーム・ティーチングを中心に、必要に応じて少人数指導を取り入れている。少人数指導の実施パターンとしては、習熟度別、領域別、興味・関心別、均等割りなど指導内容に応じて弾力的に実施している。</p>	
<p>理 科</p> <p>観察・実験時のチーム・ティーチングを中心に、選択実験や単元末のまとめとして設定している課題解決型の実験などに少人数指導を取り入れている。また、補充学習、発展学習に分かれた習熟度別指導にも取り組んでいる。</p>	

イ 個に応じたきめ細かな評価の工夫

・評価規準及び評価基準を取り入れた評価の工夫

必修9教科で単位時間、小さなまとまりごとの評価規準及び評価基準を設定、評価規準表を作成している。単位時間ごとの評価を累積し、学年末、年度末の評価・評定に総括する。

評価の流れ

単位時間・小さなまとまりでの評価規準の設定

設定した評価規準について、達成度をはかるための評価基準を決める。

評価規準について、学習状況を調べるための評価技法を選択する。

授業を行い、評価規準に照らし合わせ評価を行なう。

評価の結果をもとに個に応じた指導を行なう。

評価の結果を累積し、観点ごとに総括し、観点別評価を評定に総括する。

・情意面の変容を知り、伸ばしていく手立てとしての自己評価

生徒が主体的に学ぼうとする気持ちを育むために、生徒の情意面の変容を知り、学習意欲を伸ばす手立てとして自己評価を実施している。各教科共通で、情意面(主に、関心・意欲・態度)に関する記述や評価項目を設け、教師の側から励ましのコメントやアドバイスを返し、学習意欲の向上につなげる。

(3) 研究の成果と課題

ア 研究の成果

学習アンケートの結果から、昨年度に比べて、関心・意欲や理解度について向上が見られ、研究主題にある「確かな学力を身につけようとする」生徒の育成について、個に応じた指導の工夫を進めてきた成果の一つではないかと思われる。

学習アンケート結果

授業の内容に興味・関心を持った

平成14年度 54.5%

平成15年度 58.9%

授業の内容がよくわかる

平成14年度 66.5%

平成15年度 76.5%

単元テストの実施によって、基礎的・基本的事項の定着に効果が見られ、テスト結果の補充的学習や個に応じた指導にも活用されている。

個に応じた指導形態の工夫の一つとして取り入れている少人数指導、チーム・ティーチングについて、アンケート結果などから、これまでの授業に比べ「授業に参加しやすくなった」「学習内容がわかるようになった」などの効果が見られた。

学習アンケート結果(少人数・チーム・ティーチング)

授業に参加しやすくなった

67.0%

授業がわかるようになった

66.7%

イ 今後の課題

生徒が主体的に学ぼうとする気持ちを育てる具体的な手立ての研究についてさらに実践を積み重ねていく必要がある。

自ら学び、自ら考える生徒を育成するための指導方法や指導形態の工夫、選択教科を中心とした個性の伸長など、生徒の主体的な学びを引き出していくための指導の工夫について研究を進めていく必要がある。

(4) 研究成果の普及の方策

ア 授業公開

研究成果の普及の一環として、年3回公開授業を実施。

第1回 平成15年 5月27日 国語 理科 技術・家庭

第2回 平成15年11月20日 音楽 美術 体育

第3回 平成16年 2月10日 国語 社会 数学 理科 英語

イ ホームページによる情報発信

平成15年11月8日より、ホームページ上で研究実践について広く公開している。



(5) その他

ア 朝の10分間読書

落ち着いた学習環境づくりを目的に、全学年で朝の10分間読書を実施している。

イ 学習相談

普段の授業の中で不足している補充学習について、夏季休業中や定期考査前の期間を利用して学習相談を実施している。



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】			有	無

【特色ある取り組み事例として紹介したいポイント】

評価規準を生かした基礎・基本の確実な定着を目指した授業づくり
 基礎・基本の定着をねらいとした定期的な単元テストの実施
 弾力的な少人数指導、チーム・ティーチングの工夫
 評価規準及び評価基準を取り入れた評価の工夫